

「輸送中車両の損害分析システム」欧州で特許取得 —日・米・シンガポールをあわせ世界の主要拠点で—

株式会社損害保険ジャパン（以下「損保ジャパン」、社長：佐藤正敏）は、2008年3月27日、大量輸送される完成自動車などの損害分析システムについて欧州特許庁からの特許の承認通知書を受領しました。同システムは既に米国、日本、シンガポールでも特許を取得しており、今回の取得で日米欧の特許審査当局から特許が認められたこととなります。

損保ジャパンでは、海外でグローバルな活動を展開する企業のリスクマネジメントをサポートするために各国で様々なシステムサービスを展開していますが、今回の欧州特許承認により、世界の主要拠点でシステムサービスをご提供できることになりました。

1. 損害分析システムの概要と特許出願の経緯

損保ジャパンは、大量輸送される完成自動車などの貨物が輸送中のトラブルにより表面に損傷などを受ける事故について、お客さまがインターネット上で発生状況の把握や原因の分析ができる「損害分析システム」を2000年1月に開発しました。このシステムでは、損害発生の原因や傾向などを簡易に、かつ視覚的に分析することが可能であり、同種損害の発生防止策や軽減策を迅速に検討するうえで有用です（詳細は別紙ご参照）。このシステムについて、2000年8月に我が国をはじめ、米国、欧州、アジアなど各地域で特許出願し、下記の国・地域で特許が取得できる運びとなりました。

| | |
|------------|------------------------------|
| 米国特許取得 | 2004年10月と2006年6月（分割出願して2件取得） |
| シンガポール特許取得 | 2006年 7月 |
| 日本特許取得 | 2006年 8月 |
| 欧州特許承認 | 2008年 3月（特許登録手続完了は5月の予定） |

2. 国際特許取得の取り組みの背景

損保ジャパンは、次のような背景から、自社で開発し、または保有する保険システムについて、2004年度以降国際特許取得に向けて積極的に取り組んでいます。

（1）付加価値システムサービスの発展

損害保険市場の自由化、システムの技術革新により、損害保険業界では、お客さまのリスクコントロールや事故防止策の検討に役立つ有益な各種システムサービスなどが保険契約の引き受けや保険金支払いに付随する付加価値サービスとして重要な位置づけを持つようになってきました。特に、最近は海外も含めたシステムサービス提供の要望が高まっており、損保ジャパンとしてもお客さまの事故の防止・軽減活動を支援する取り組みをワールドワイドで強化しています。

(2) システムサービスの継続利用

この種の付加価値システムサービス利用の主目的である、保険事故の原因・発生傾向の分析を踏まえた事故防止策の検討作業においては、その活用効果を引き出すために同じ条件・環境下での継続的な利用が必須となります。そのためには、法的にもそのシステムサービスを安定的、継続的にご利用いただける環境を確保することが重要です。

(3) 保険サービスの国際競争力向上

海外先進国の保険関係企業などの知的財産戦略は、日本国内よりも積極的な取り組みが多く見られ、損保ジャパンが海外市場で安定したサービスを提供していくためには、海外における特許取得の取り組み強化が必要です。

以上のことから、損保ジャパンは、海外における特許取得の取り組みを積極的に推進しています。

3. 今後の展望

損保ジャパンは、今後もお客さまの視点にたち、最新IT技術を駆使した先進的でご利用になりやすいシステムサービスの開発に努め、それらシステムをお客さまに安心して長期間ご利用いただけるよう、国内・海外の特許取得を推進していきます。

以上

※添付資料： 別紙 「損害分析システム」の概要

「損害分析システム」の概要

1. システムの名称

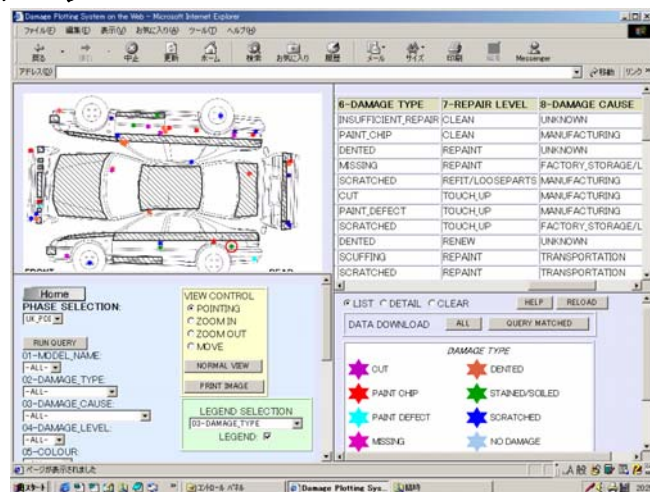
DAMAGE PLOTTING SYSTEM (ダメージプロットングシステム)

2. システムの概要

損傷の位置とともに損害属性のデータをシステムに蓄積することにより、従来、感覚的あるいは断片的イメージでしか捉えられなかった損傷の発生部位の集中度やその程度、傷の種類、発生の傾向などを簡単な操作で様々な切り口から把握し、統計分析することを可能としたものです。その分析結果は、パソコンの画面で平面図上に視覚的にわかりやすく色分けして表示されます。(下記画面は車両の表面につく損傷分析の例)

従来は、手作業でデータや資料を仕分けし、図面化していかなければ得られなかった視覚的な損害分析結果を、簡易な操作で短時間に取得することができます。

3. システムの画面イメージ



4. 導入メリット

特に完成自動車などの輸送については、その工場搬出・輸送・保管形態や関係する輸送機関・組織が複雑で、大量に輸送されることから、輸送途上のどこかで車両に損傷が発生しても容易にはその発生原因・発生場所などを究明できないケースも多くあり、自動車メーカーにとって悩ましい問題でした。このシステムは、輸送物流コスト軽減や、リード・タイムの短縮にも役立つところが一番の導入メリットです。このシステムを損害調査活動にご利用いただくことにより、簡易な操作で迅速に損傷の発生傾向や特徴、発生場所、原因などの推定が可能となり、有効な損害防止策の検討に役立てることが出来ます。

以上